



会津美里町立新鶴中学校

学校通信

2017年11月22日発行 文責：校長 岩澤一徳

「生きる力」の育成!

「生きる力」という言葉はよく耳にするとおもう。これは、1996年に文部省（現在の文科省）の中央教育審議会が「21世紀を展望した我が国の教育の在り方」という諮問に対する第1次答申の中で述べ、教育の新たな目的の一つとして上げられるようになりました。

変化の激しいこれからの社会を生きるために、「確かな学力」、「豊かな人間性」、「たくましく生きるための健康・体力」の知・徳・体をバランスよく育てることが大切です。



【 真剣な学び 】

今まで、外部研修や校内での研究会を通して授業改善を図ったり、道徳の授業や体験活動により豊かな心を育もうとしてきました。また、体育や部活動の実施によって、たくましい心身の育成にも力を入れてきました。下に書いてある二つの記事は、学力向上策と心や体の指導の一端を示すものです。

2学期も残すところあと1ヶ月弱となりましたので、例えば生きて働く知識や技能が習得できたか、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力は育成できたか、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」は涵養できたかなどを確認しながら総まとめに努めてまいります。12月には第2回学校評価を実施します。学校の取り組みがどうだったかをお伝えいただき、生徒たちの未来に「生きる力」をどう育成していくか、鋭意努力していきたいとおもう。

【 町教研「授業公開」 】

11月17日、町内の小中学校の先生方に多数ご参加いただき、町教育研究会「公開授業研究会」を開催しました。

1年理科と2年国語の授業を幼稚園・保育所、小中学校の先生方40名に見ていただき、授業後には授業や学力向上について協議しました。最後に福島大学教授 栗原秀幸様と新鶴小学校の津田校長先生に指導助言をいただき、公開自体は終了となりました。

16時から新鶴地区の幼保・小・中の連携協議会を合わせて行い、児童生徒の情報交換や「協力して取り組むべきこと」を小グループで話し合いました。幼少期から15歳まで、長期スパンで子どもの成長を考え、育ちを支援していくことを確認し合いました。



「思春期講座」

通常、このタイトルを付けて生徒に聞かせる内容は、思春期の体や心の変化、命の大切さやつながりといった性教育です。

しかし、今回11月20日に行った講座については、講師の「梅宮れいか」先生が「性の多様性を知ろう」という題名で、恋愛や結婚という生徒の興味・関心を引く話から、性的マイノリティー（LGBT）への差別やなどに踏み込んで話してくださいました。

性の話をタブー視する人もいますが、先生は意外な写真を使ったり、医学的な高度な話も混ぜて生徒たちに真剣に語りかけ、思いの強さがひしひしと伝わってきました。

人権的な話にも繋がっていましたし、道徳的価値も心に響く、とてもすばらしい講演でした。ネット情報が氾濫する現代社会では生徒を信じてしっかりと語っていくことが大切なのだと感じられました。

